

## 大野 立志 議員

(一問一答方式)



- ①第一次産業
- ②愛媛県県立学校振興計画への対応
- ③山鳥坂ダム建設事業

### 移住・定住等による新規就農者への支援とその利活用の状況について

**問** 就農・定住するためには、栽培技術などの営農関係、経営指標や農業経営に関するアドバイス、また、地域コミュニティへの支援も必要と考えるが、具体的な取組はどうなっているか。

**答** 移住・定住による新規就農者については、各種補助事業を活用し令和2年度に1名、3年度に2名が就農しています。また、地域おこし協力隊では、その家族を含む4名が就農等を目指し活動をしており、今年度も1名の募集を行っています。

具体的な支援として、協力隊の方々については、市内各所の地区の代表者、農家の方などを紹介させていただきながら定住先について案内しています。現在、協力隊4名のうち3名の方が柳沢地域を希望され、地元のご理解と受入れの体制も整っていることから、今後、就農から定住へつながっていくことを期待しています。

### 市内の県立学校の更なる魅力の醸成について

**問** 本年3月に愛媛県県立学校振興計画が公表され、今後の統廃合計画が示される中、県立学校の存続を含めた魅力づくりは立地自治体の喫緊の課題と考える。本市としてどう対応するつもりか。

**答** 県立学校振興計画により、大洲高校と大洲農業高校との統合が令和8年度に行われること、大洲高校肱川分校については募集停止が延期になったこと、長浜高校は引き続き魅力化推進校として存続することとされたところです。

このうち、大洲高校と大洲農業高校の統合に向けて、5月30日に大洲高校開設準備委員会第1回会合が開かれ、その委員として本市職員も市内小・中学校、大洲高校及び大洲農業高校の教職員、PTA、同窓会、農協の関係者とともに参加しました。今後

その準備委員会において、統合により新校となる大洲高校に期待される社会的役割、目指すべき学校像などについて意見が交わされることとなっています。普通科、農業科及び商業科の併設校として、職業、学科横断的な学びの充実により、進路実現を図るために必要な準備に向け、引き続き連携に努めていきます。

また、大洲高校肱川分校は、南予にある唯一の昼間の定時制高校となるため、少人数教育の良さを生かした多様な学びの場が確保されるよう、可能な支援策を検討したいと考えています。

さらに、長浜高校は魅力化推進校に指定されているとおり、生徒の全国募集により特色ある教育が行われています。高い知名度を誇る水族館部の活動や、市内だけではなく県内外出身者の若者が学生生活を送る場として、今後も地域と一体となった支援の継続が必要と考えています。

### 新入船橋及び肱川公民館岩谷分館までの付替県道の供用開始時期について

**問** 山鳥坂ダム建設に伴う付替県道は順次整備が行われているが、岩谷地区の生活道路としては、新入船橋の完成や肱川公民館岩谷分館までの付替県道の供用が伴わない限り利便性の向上につながらない。その供用開始時期はいつか。

**答** 現在、令和7年度の一時切替に向け工事が進められています。岩谷地区の生活道路として利便性を向上させるために、一時切替に合わせた新入船橋や、それに接続する県道の供用が必要と考えますが、新入船橋については地質が悪いことや、新型コロナウイルス及びウクライナ情勢等により資材入手が困難であったため、一時切替と同時期の完成とはならず、現時点では令和8年度完成見込みと伺っています。

また、一時切替の分岐から肱川公民館岩谷分館までの付替県道については、既に工事が進められていますが、時期に関しては国から令和13年度の試験湛水までには完成予定と伺っています。

本市としても、新入船橋については、付け替え県道とともに地域の生活利便性の向上には欠かせない重要な道路となるため、一日も早い完成に向けて、引き続き国に要望していきたいと考えております。